











# 日米の水稲栽培法の主な違い

- 我が国は、0.3～0.5ha区画を中心とした水田に合う中型機械による稲作が行われているのに対して、米国の稲作は広大な農地に簡易に畦を造成した大区画（10ha区画程度）で、種もみを飛行機で直接、播種する等、栽培法が大きく異なり、効率性に大きな格差。

	日本	米国(カリフォルニアの典型的生産法)
経営規模 [1ha=10,000m <sup>2</sup> ]	<p>水稲作付面積 全国平均 1.8ha </p> <p>北海道 9.5ha </p> <p>1区画規模 ~1ha程度 </p>	<p>約320ha            (約1.8km×1.8km相当)            (東京ドーム約70個相当)</p> <p>1区画規模 ~10ha程度 </p>
トラクター	 <p>20～50馬力            (30馬力：0.2ha/時)</p>	 <p>95～225馬力            →購入又はリース            (200馬力：1.2ha/時)</p>
播種・育苗・移植 直播	 <p>ハウス内等で播種・育苗            → 田植機により移植            (4～10条植：            0.2～0.45ha/時)</p>	 <p>種もみを飛行機から            直接播種            →専門業者に外部委託</p>
収穫	 <p>自脱型コンバイン            (3～6条刈：            0.15～0.3ha/時)</p>	 <p>大型コンバイン            →購入又はリース            (刈幅6m：1ha/時)</p>